

令和5年度 第6回 豊田市保見地域会議 会議録

開催日時	令和5年9月27日(水)	開会	閉会
		午後7時	午後8時25分
会場	保見交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：12人		
	会長：湯浅 進也		
	委員：大羽 啓允 楓原 和子 加納 和茂 倉知 朋範 篠田 賢悟 福岡 博之 船倉 茂久 水嶋 淳 山田 貴啓 山本 昭治 吉村 迅翔		
欠席者	6名(田中 治(副会長) 大城 一美 竹崎 佐恵美 深見 浩司 藤田 パウロ 森岸 直幸)		
オブザーバー	豊田市議会議員：福岡 靖純		
傍聴者	0名		
事務局	豊田市 太田市長 地域振興部：奥村室長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、岩村(苑)主査 企画政策部：辻部長、企画課：野依課長、都市計画課：大光副課長		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊田市民の誓い(唱和) 2. 会長あいさつ 3. 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問について <ul style="list-style-type: none"> ・市長あいさつ ・諮問書の授受 ・企画課、都市計画課より諮問の概要説明 ・市長との意見交換 4. 新たな提言に向けた取組について 5. わくわく事業2次募集審査結果について 6. 情報共有・事務連絡 		

■ 議事(要約)

2 会長あいさつ

3 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問(資料1~3頁、前回配付資料)

■ 市長あいさつ

- ・総合計画の諮問と言うと、この地域でどんな事業をどんな時期にやるのかと思われると思いますが、現在は計画策定の前段である。
- ・先を見通しにくい時代において、10年先のことを見据えるのは非常に困難なことである。社会情勢など前提が変わった場合にどうするのかの方向性を整理しておくことが必要であり、その考え方を示したものである。
- ・そうした内容の諮問であると踏まえた上で忌憚のない意見を願いたい。

■ 諮問書の授受

市長から会長に諮問書を手交

<地域会議委員との写真撮影>

■ 諮問の概要説明（資料 2・3 頁）

企画課、都市計画課からポイントを絞って説明

■ 意見交換会

（委員）

- ・八草町はリニモや愛知環状鉄道があるが、都市構造の「えきちか居住誘導エリア」はどうやって決まるのか。

（市長）

- ・拠点とは違い、「えきちか居住誘導エリア」は広い意味で設定する若い人は郊外でも問題ないが、年を取ると車での生活ができなくなった場合は住み替えが必要になってくる。どの駅でどの範囲でというのはまだこれから検討していく。

（委員）

- ・拠点が第 8 次の 8 か所から 7 か所になっており、八草がなくなっている。どういう扱いになっているのか。

（都市計画課）

- ・八草のまちづくりは継続していくが、都市機能の集約は進めにくい。居住機能の集約は行っていく。

（委員）

- ・昨年の 8 月に地元の説明会でこれからは区画整理事業を行わず、民間活力を生かした開発とするという話だったが、八草は規模が小さいということか。

（都市計画課）

- ・周辺には長久手や浄水に商業施設や医療施設があるため、居住を中心としたエリアとしていくことを想定している。

（委員）

- ・都市機能として八草は何がなくなるのか。

（都市計画課）

- ・利用頻度の高い交流館やスーパーはまちづくり計画で可能だが、広域圏域をカバーする文化・教育施設、大規模商業施設などは集約していかないという考え方がある。

（市長）

- ・表現がわかりにくいので、都市拠点と生活拠点については分かりやすいように今後定義していく。

（委員）

- ・案について読んだが、個人的には特に意見はない。大きい方向性としては問題ないが、地域としては困りごとばかり挙げるとどうしてもマイノリティな話になる。この地域の良いところは、歴史などを研究している団体が活発に活動しているところがあるが、それらの団体の横の情報の繋がりが弱いと感じている。

（委員）

- ・ネットワークは足りないものを補うための手段となる。その地域に個々でどうしても足りないものはネットワークで補うというのは合理的な考えである。

（市長）

- ・計画で一度決めたことであっても、詰めていく過程でその時々状況によって無

理なこと出てくる。そうした際に3つの「変える」や「発送の転換」の考え方もう一度立ち返って、見直していけるのではないかと考えている。

- ・自治区やコミュニティ会議の運営でも同様だと思うが、コミュニティ会議で10年計画くらいの地区計画を作って、一度作ったものをチェックして議論しているかと言うとそうになっていない。本当は定期的にチェックし、見直しの基準に沿って見直しが行えると良い。

(委員)

- ・「人の視点」、「人を支える基盤」というのは、自分としては理解ができるが、地域の現実に照らし合わせると先が全然見えなくなる。外国の方との交流というに移住の人だけが対象で、定住の人のことが忘れられていると感じる。計画の中でどこに位置づけられているのか。夢をもつこともできない現実があるのでは。

(市長)

- ・他の地域で2050年の先ことなんて分からないという意見があつが、今の子ども10年後、20年後のためにどのような豊田市を残すべきかと考えた場合、10年後の総合計画も違って見えてくる。外国人との共生の話でいうと、2065年の段階では日本の外国人の割合は9人に1人になるという推計がある。
- ・保見団地は未来にとっては先進事例となる可能性がある。保見団地の経験を保見地域全体、豊田市全体に生かしていけるといい。日本人でもマンション、アパートの住人はなかなか自治区の加入が進まない。吉村委員を取り上げたNHKの番組のように素晴らしい事例もある。そういったものをいかに丁寧に情報発信していくかが課題である。一方的なイメージが出来てしまっているので、うまく情報発信していくことが必要である。
- ・今後、高齢者が増えて子どもは減っていく、デジタルネイティブの子ども達にどのような地域社会、豊田市を残すのかを考えていかなければいけない。

(委員)

- ・パソコンでいう幹となるOSは変えずに、変化に対してバージョンアップで対応していこうという考えかと思うが、OSを5年後、10年後、15年後と何年持たせるのかで変わってくるのでは。

(市長)

- ・現実的には見えない部分が多い。合併して新しいまちを作っていこうと7次の総合計画は2008年4月にスタート、2008年9月にリーマンショック、2009年から10年にトヨタ自動車の大規模リコールが起き、2011年に東日本大震災と、計画を思い通りに進められなかった経験がある。そういった先が見えない状況でも第9次の総合計画は対応できるようにしていきたい。

(委員)

- ・答申は保見地域の独自性を反映したものではなく、豊田市全体をイメージしたものを回答するべきか。

(市長)

- ・これまでの意見交換会での意見を聞いていると生活拠点のことなどが中心なるが、地域として関心もっていることなど箇条書きでも何でも結構ですのでお願いしたい。

- ・他の地域会議に出席した際にも話題にしたが、交通安全のお話をさせていただきます。子ども達の登下校の見守りを地域の皆さんでやっていただいていると思います。現在、交通安全の取組はドライバー側から「歩行者保護のモデルカー活動」、歩行者側からは「とまってくれてありがとう運動」、両方から交通安全の取組を進めています。「とまってくれてありがとう」という取組を始めた理由は、5、6年前に豊田市の都市交通研究所で、ドライバーはどういう風に声かけをしてもらうのが一番嬉しいと思うか研究をしたところ、ドライバーが一番言われて嬉しいのは「ありがとう」でした。交通安全の立証活動でバナーには「飲酒運転をしてはダメ」、「シートベルトしなさい」ということが書かれていますが、ほとんどのドライバーにとっては関係ないことです。飲酒運転はしていないし、シートベルトもちゃんとしている自分のことではないと考える。だから、それらのメッセージは、ドライバーには響かない。それよりも「安全運転ありがとうございます」、「今日も安全運転ありがとうございます」というメッセージの方がドライバーには響くというところから来ています。
- ・登下校で子どもたちを見守るときに、大人の人たちがガチガチに横断歩道を固めていませんか。ガチガチで横断歩道を固めるから子どもは何の心配もなく、その横断歩道をさっさと歩くだけで相手方の車に気をつけるということが習慣付かない。そういう機会にできるだけ、子どもに運転手さんを見てごらんと、アイコンタクトを促す。運転者さんを見てありがとうと言おうという声かけをしてもらえただけで、子ども達はそういうものが習慣付くのではないかと思います。立哨で使う「ありがとう」というバナーも結構揃えていますので、ぜひご活用いただきたいと思います。

4 新たな提言に向けた取組

- ・前回の会議での質問や意見を踏まえて、回答及び健康づくりに関する考え方の方向性を共有するため、資料に基づいて事務局から説明（資料4・5頁）
質疑等：イメージは個人の取組だが、地域会議として何をしていくのかのイメージがないので、どうしても個人の健康づくりをどうするか議論になってしまう。
→回答：次回以降で一緒に検討していきたい。

5 わくわく事業2次審査結果

- ・2次募集で補助金交付が決定した「保見いきいきアカデミー」、「大畑キャラクター広報の会」、「保見の歴史を伝える会」の3団体の活動内容についてについて紹介（資料6～22頁）
- ・2次募集の団体訪問のグループ分け案について（資料23頁）
→事務局案で了承

6 情報共有・事務連絡

- ・情報共有なし
(次回の予定)

日時：令和5年10月25日（水） 午後7時から

場所：保見交流館1階 多目的ホール

内容：諮問答申、提言の協議